

ボートダイビング等に係る事故防止対策

1 事故防止対策

- (1) ダイビングサービス提供者、インストラクター及びガイドダイバーにおいては、事前にダイビング参加者の技術レベル、ダイビングスポット、気象・海象等に関する情報の収集に努め、最も適切なダイビングプランを策定する。特に、**海潮流については、十分な調査を実施し、必要に応じてダイビングの中止やエントリー開始時刻の調整を行う。**
- (2) ダイビング参加者側と監視する側において、**事前にエントリー及びエキジットの時間と場所、潜水コース、呼び戻し信号**など緊急時の対応策等について、また、ダイビング参加者間においても、事前に**水中でのコミュニケーション方法、緊急浮上法、グループとはぐれた場合の措置等**について、それぞれ**十分な打合せを実施する。**
- (3) ダイバーの監視は、漂流等の事故を防止するうえで極めて重要であることから、**ダイビングボートの操船者以外に専従の船上監視員を配置し**、潜水時間の管理やダイバーの発する気泡による位置の確認等、**事故の未然防止に努める。**なお、太陽に向かっての逆光での監視は、見落としを生じる可能性が高いことから避ける。
- (4) 海潮流の影響が大きい海域における**ドリフトダイビングにおいては、ダイバーを見失うことがないよう複数のグループによる同時潜行は避ける。**
また、現場海域に精通した**ガイドダイバーの配備や船上監視員の増強等、安全対策の一層の強化を図る。**

2 事故発生時等における対応

(1) ダイビング参加者

イ 漂流事故発生時における搜索活動を容易にするため、オレンジなど常に**目立った色のウェットスーツの着用**に心掛けるほか、船艇・航空機等の搜索勢力に対する**信号用**として、市販されている**以下のような物品の携行に努める。**

昼間用：手鏡、海面着色剤、レスキューフラッグ等

夜間用：ストロボライト、蛍光ライト、反射テープ等

昼夜間用：ホイッスル、救命信号筒（連発式）

ロ 漂流事故に遭遇した場合、四囲の状況を的確に判断し、陸岸等への自力上陸の可否を早期に決定する。なお、自力上陸が困難と判断される場合においては、BC ジャケットの活用を図るほか、**ウエイト、残圧の無くなったボンベ等の重量物については、躊躇することなく投棄し、浮力の確保及び体力の温存に努める。**

ハ 集団での漂流においては、離れ離れにならないよう**ロープ等でお互いを連結し、救助勢力の到着を待つ。**

(2) ダイビングサービス提供者等

捜索・救助活動の遅れは、時間の経過とともに捜索海域の拡大を招き、発見救助の可能性も低下させることから、エキジット時間を過ぎてもダイバーの所在が確認できないなど、**遭難そのものが不確実な段階であっても、直ちに海の緊急通報用番号「118番」を利用して、海上保安庁に関連情報を速報する。**

このため、**ダイビングボートには、活動海域に応じた有効な通信設備（携帯電話の不感地帯等においては、無線電話、衛星携帯電話等）を装備する。**

(参 考)

〔事故概要等〕

発生日時	平成 18 年 7 月 17 日 午前 7 時 00 分頃
発生場所	鹿児島県宇治群島ガランのハナレ西側
事故概要	<p>事故者 4 名（男性 3 名、女性 1 名、）は、他のグループ 5 名とともに 0623 頃から順次ダイビングボートから入水し、ダイビングを開始したが、当初の予測と潮の流れと速さが異なっていたため、危険を感じ約 20 分後の 0647 頃浮上し、マカブイを上げてダイビングボートの到着を待った。</p> <p>略同時刻、事故者の西側に他のグループのダイバー 5 名が浮上したため、ダイビングボートは、先ずこの 5 名の収容を開始、この時、ダイビングボートと事故者は、目視で確認できる距離にあったが、ダイビングボートからは逆光の位置関係にあり、結局、ダイビングボートは事故者に気付くことなく当初のエキジットポイントである南側への移動を開始したもので、事故者は慌ててマカブイを振り、笛を鳴らしたが気付いてもらえず、漂流を開始することとなったもの。</p> <p>事故者は、漂流時の対応として、離れ離れにならないよう 4 名で手などをつなぎ、また、全員 BC ジャケットに充空し、ウエイトについては投棄、ボンバについては残圧もあり BC ジャケット充空用として携行を続けた。</p> <p>日没後の 1930 頃、捜索中の航空機が接近してきたので、事故者の 1 名が水中ライトを所持していることを思い出し、航空機に向けて振ったところ発見され、漂流開始から約 13 時間後の 2017 頃、漂流開始位置から南東へ約 22 キロメートル離れた海上において巡視船により全員が救助されたもの。</p>
事故当時の天候	晴れ、南西の風 6 メートル、波高 1.5 メートル、うねり 2.0 メートル、海水温度 29 度、視程良好
参考事項	ダイビングボートの船上監視員は船長 1 名のみ、ガイドダイバーなし 現場海域は、携帯電話の不感地帯でもあり、海上保安庁へ事故発生通報がなされたのは、漂流開始から 2 時間以上が経過した後